1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　　----　　）

事業所番号	067080055		
法人名	社会福祉法人　光風会		
事業所名	グループホーム　はまゆう		
所在地	山形県酒田市宮野浦3丁目20－1		
自己評価作成日	令和　1年　8月　28　日	開設年月日	平成　14　年　9　月　2　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桧町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和　元年　9月　30日	評価結果決定日	令和　元年　10月　15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

おもてなしの心でホームの理念「ゆったり、たのしく、笑いのある時を」掲げ、毎日、一人ひとりのペースに合わせて支援しています。昔ながらの伝統行事、ボランティア、地域の方々との繋がりを大切に、利用者様の願い・思いを引き出してサービスを提供しています。テラスの前の畑では、夏野菜やさつまいもを植え新鮮な野菜を収穫して食べています。利用者様の方々は、共に助け合い、支え合い、楽しみを共有しながら生活されています。職員は、人生の大先輩である利用者様の方々から、日々、いろいろな事を学び、共に喜び、楽しく過ごさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

理念の実践を大切にし、地域との交流を大切にするとともに、自衛消防隊を組織し地域と連携することや、認知症予防講座を行い認知症介護の啓発と発信をすることなど、「地域に感謝、貢献」に力を入れている。また、利用者の思いを叶える個別活動や、職員が利用者に合わせ、利用者の中に混じって時間を過ごし家庭的な環境を作るとで「ゆったり・楽しく・笑いのある時」を大切にしている。職員と計画作成担当者が協力し、普段から利用者との関わりの中で気づきや職員一人ひとりの認識を詳細にまとめ、暮らし方の希望や意向の把握繋げている。山形沖地震の際は隣接する施設の二階に利用者全員が避難し普段の訓練の成果が活かされていた。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1．ほぼ全ての利用者の
			2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,37）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：35,36）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：48）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：29,30）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
51	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1．ほぼ全ての家族と
			2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
			2．数日に1回程度
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1．大いに増えている
		○	2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
65	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1．ほぼ全ての職員が
		○	2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての家族等が
			2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ホーム内に当事業所の理念「ゆったり、たのしく、笑いのある時を」と「地域に感謝、貢献できるホームを目指します」を掲げ職員が日々頭に入れ、意識して支援している。	見やすい場所に掲示するとともに、その実践と共有のため、毎年事業計画の中で重点事項としてより詳細な目標を定めている。職員はルーティンワークではなく利用者に合わせ、利用者の中に混じって時間を過ごし家庭的な環境を作ることで、「ゆったり、楽しい時」を過ごせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・当事業所が、自治会の会員となり、自治会の行事・コミセンでの文化祭、地区運動会、法人の夏祭りに参加したり、神社の清掃活動、地域のスーパーでの買い物等で交流に努めている。毎年秋には地域の保育園児とはまゆうの畑の芋ほりを行っている。また、地域の100歳体操の時間を活用に、認知症予防講座を行っている。	地域の宮野浦学区の体育祭りや宮野浦祭り、文化祭等に参加するとともに、法人の夏祭りに招待する等交流が盛んである。近隣の神社の掃除や保育園児との芋ほり等地域との関わりを大切にしている。はまゆうだよりを地域に配布し、認知症予防講座を行うことで、認知症介護の啓発と発信をし、「地域に感謝、貢献」に力を入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の100歳体操の時間を活用に、認知症予防講座を行っている。また、はまゆうだよりを配布して、はまゆうの活動内容を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヵ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の報告を行い、地域からの情報も得たり、意見交換を聞く場を設けている。また、会議録、資料を職員間で回覧しサービスの向上に繋がるように努めている。	自治会長、民生委員、市職員、包括職員、利用者家族等と2か月に1回開催している。事業年度初めには、事業計画や研修計画の報告が行われている。事業所の活動等をスライドを使って報告するともに、防災や食中毒等の事業の取り組みを紹介し、地域の方より意見等を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議では酒田市介護保険課、地域包括支援センターの担当者や自治会長、民生委員の方々から出席してもらい情報交換や連絡等を行い協力関係を築くように努めている。	運営推進会議を通して、事業所の取り組みや状況を報告し意見等を頂いている。酒田市介護サービス事業所地域密着部会での情報交換が行われている。利用者に関わる個別具体的な問題等は、窓口と協力し問題解決に向け連携をはかっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	・身体拘束マニュアルがあり、内部研修をを行っている。また、防犯安全対策の為、16時30分から翌日6時30分まで玄関に鍵を掛けているが、他は見守りを行い身体拘束のない支援を行っている。	併設施設と共に、「身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」でマニュアルの見直しや事例等の検討が行われている。利用者の予測できないような危険に繋がる行為もその都度検討し工夫を行い不適切な対応の無いよう努力している。外出したがる利用者には否定せず、寄り添いながら一緒に行動し、見守り安全を確保し、不必要なカギをかけないよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止についての内部研修を行い、各自で「虐待の芽チェックリスト」で確認をしている。また、職員間で声を掛け合い、虐待を見過ごさないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修等は行っていないが、資料は見れるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時に契約書や重要事項説明書の説明を行い、不安や疑問点を確認しながら、納得、理解してもらっている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者様には日常生活の中で、ご家族様は、面会時や連絡があった際に話す機会をもち、要望や意見を聞き、反映させるようにしている。また、「はまゆうだより」を運営会議出席者やご家族に配布。宮野浦地区に回覧してもらうことで知ってもらう機会を作り、玄関先には意見箱を設置している。	一昨年の目標達成計画に従い、家族あてアンケート調査が行われている。今年も11月に実施を予定している。家族交流会や行事等に参加していただき、職員と共に過ごす時間を作り、信頼が深まるよう努力している。職員も、家族の面会時等は利用者の情報を細かく伝え、家族との信頼関係を築き良好な関係を大切にし意見等表しやすい関係を築いている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員連絡ノートを活用したり、職員会議を開催し、意見、提案、改善など話し合う場を設け反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・法人で人事考課を取り入れており、成績が給与に反映するシステムを取り入れている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・施設内外の研修に参加して、ケアについて確認や見直す機会を作り自己啓発を促している。	職員各々が目標を立て、管理者等が複数回面接を行い指導することで、職員の力量の把握や働きながらトレーニングすることに繋げている。外部研修や法人による研修、事業所で行う実践的な研修等様々な学ぶ機会を作っている。研修受講後は、研修アンケートを職員各々が提出し、研修の成果や理解度等を管理している。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・山形県グループホーム連絡協議会の会議や研修、実習に参加したり、酒田市介護サービス事業所連絡協議会への研修会に参加することで交流を図っている。	グループホーム連絡協議会の研修や、酒田市の介護サービス地域密着部会等を通じて情報交換等交流を大切にしている。また、個別に地域の事業所同士の情報交換も大切にし、ネットワークを作っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用前面接時に本人の生活状況やニーズを把握し、誠意をもって話をし接することを心掛け、不安が軽減するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族様に電話や自宅を訪問する機会をつくり、ニーズを把握し親身な姿勢を持つことに努め、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事前の面接時のニーズを踏まえ、要望等があった際には対応できるサービスを検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・調理、裁縫、買い物、畑仕事等の作業を一緒にす機会をもち、話をして教えてもらいながら、共感することを心掛け過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・電話や面会時の状況報告や情報交換、毎月の生活状況の報告を踏まえ、また本人にとってのより良い方向性を話し、行事には一緒に参加してもらい、共に過ごす時間を作りながら、信頼関係を築いていくようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・電話での連絡での関係継続や知人の面会も積極的に受け入れ過ごしやすい環境を整えたり、娘に手紙を書いたり、馴染みの美容院に出掛けたり、生まれ育った土地を尋ねたりと、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様と関わりながら、利用者様同士の代弁の者となり、孤立しないように、職員が調整役となるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・法人の老人福祉施設に入所した場合などは、本人の様子を見に行ったり、面会時には、ご家族様から話を聞いたりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活の中で、話をよく聞き、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。本人の表情、言葉から思いを感じ取る事に努めると共に、ご家族様から情報提供や意見等を参考に支援している。また、個別活動で外食で食べたい物を食べたり、行きたいところへ外出する機会を作っている。	利用者との関わりの中で気づきや職員一人ひとりの認識を計画作成担当者が詳細にまとめ、暮らし方の希望や意向の把握に繋げている。職員も利用者が何を思っているか、どんな人なのかを常に意識し関わり、計画作成担当者に情報を提供している。	
24		**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用前に、ご本人、ケアマネージャー、ご家族様からの情報収集に努めている。また、日常生活の中で、話を聞く機会を作り職員間で共有するようにしている。		
25		**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの状況を観察し、個人ケースに記録と共に申送りを行い、職員が情報を共有し本人の有する力を生活の場で継続していただけるように支援している。		
26	（10）	**○チームでつくる介護計画とモニタリング** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、ご家族様から要望等を聞き、独自のアセスメントに職員全員から記入してもらい、計画に反映させ作成している。	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、必要に応じて見直しを行っている。家族や職員の情報、意見、アイディア等を担当者が詳細にまとめ、カンファレンスで確認し合い、現状に応じた計画になるよう工夫している。	
27		**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人ケース記録に日々の様子や実践したことを記入している他、申し送りノートも活用し情報を共有している。		
28		**○地域資源との協働** 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・神社の清掃、地域の文化祭へ作品出展、地域の祭りや、運動会等に参加したり、地域のスーパーに買い物に行き、本人の心身の力を発揮できるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の希望の医療機関への受診や往診を定期的に行っている。受診時には、本人の健康面、生活面、バイタルを記入し医師に渡している。必要時には、直接医療機関に連絡を取り、適切な対応を行うようにしている。	利用者、家族の意向に応じた医療機関との連携を大切にしている。往診時は利用者の生活の情報を医師に提供し、受診時は連絡箋を家族に提供し、医療機関との情報の共有に役立てている。受診時の情報は家族等より伺い個人記録に記載している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日、体調記録を記入し法人の看護師に回覧している。また、体調に変化があった場合は、法人の看護師より診てもらい、適切な指示のもと、医療機関に連絡、受診するような体制をとっている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した場合は、情報提供を行い、定期的に状態確認に行き、また、病院関係者と情報交換を行い、退院できるように努めている。		
32	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	・利用前に、事業所の方針を話し理解して頂くと共に、重度化した場合など、状況をみながら早めにかかりつけ医や看護師と共に話し合い。方向性を確認している。	契約時等早い段階から指針を使い事業所で出来ること出来ないことを説明している。利用者の状態や状況に応じて繰り返しの話し合いが持たれ、段階的な合意を繰り返し方針の共有を図っている。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルを回覧したり、法人の看護師より応急処置や初期対応について確認する機会を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災、地震、津波、風水害、夜間の避難訓練を行っている。毎月、11日、法人で防災無線訓練を行っている。また、法人の施設と一緒に地域合同の避難訓練を行っている。自衛消防隊も地域の安全に努めている。酒田市より防災ラジオを無償貸与してもらっている。	年3回、併設施設と合同、事業所単体での避難訓練が行われている。研修等も行われ取り組んでいる。水害を想定する地域合同の避難訓練の参加も予定されている。法人の自衛消防隊も組織され地域との連携も作られている。広域災害のための備蓄も法人により準備されている。利用者の各個室の前には、避難が完了したか否かを確認するライトが設置されている。山形沖地震の際は、併設施設の2階に避難し、普段の訓練の成果が表れている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・日々の生活の中で誇りやプライバシーを損ねないように人格を尊重し一人ひとりに合わせた対応と言葉い、話し方やトーン等や笑顔で話すことに気を付けている。	接遇の研修やが虐待防止の研修等を通じて、普段のケアを振り返り、人格の尊重や不適切な対応の無いよう努めている。職員は利用者各々に合わせた対応と言葉使いに努力している。職員間で普段から注意し合い不適切な対応の無いよう努力している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・意思や希望が言えるような声掛け、環境作りを促し、会話の中から話がきけるように働きかけをしながら本人の納得いくように支援している。また、6カ月でプランの見直しの際にも再度確認している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・1日の流れはあるものの、各自のペースに合わせ無理なく希望に合わせて過ごしていただくようにしている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人にまかせているが、季節にあった服装や必要時には職員からそれとなく促し整えてもらったり、女性の利用者様は、化粧をしてみたり、馴染みの美容院にパーマや髪を染めに出掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・旬の物、食べたい物を聞いたり、一緒に買い物に行き食材を選んだり、ホームの畑から新鮮な野菜を収穫したり、調理の下ごしらえ、盛り付け、後片付けを一緒にしている。郷土料理や昔ながらの伝統行事食を大切にしている。	一昨年の目標達成計画に従い、管理栄養士の指導と研修を実施している。三食事業所内で調理し、利用者にもできる方には参加していただき家庭的な食事になるよう努力している。畑からの食材や季節感を大切にしている。外食やおやつ作りなどを加え食事が楽しめるよう工夫している。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・本人の状態に合わせ、食事の量、形態（ミキサー・刻み）を提供している。利用者様全員の食事摂取チェックを行い、水分も定期的に摂ってもらい、摂りたがらない方には本人の飲みたい物をを聞いて提供したりしている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。出来るだけ本人からしてもらい、不十分なところは、声掛け、援助している。また、週1回、義歯洗浄剤で洗浄している。また、口腔ケアについても研修を行っている。		
42	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェックを行い、個々の排泄パターンの把握に努め、声掛け誘導を行い、失禁予防・減少に努め排泄の自立に繋げるようにしている。	排泄チェックを管理し、適時の声掛けを行いなるべくトイレで排泄できるよう支援することで、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。計画に排泄支援を具体的に位置づけ評価を繰り返しながら自立に繋げるように努力している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄チェックを行い、排便の確認をしている。午前、午後の水分補給や毎食時にお茶を提供し水分を摂ってもらっている。排便を促す為に、便座のウオシュレットを使用し肛門に刺激を与えてみたり、誘導時に腹部マッサージをしてみたり、乳酸飲料を提供したりしている。		
44	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・本人の気分や体調に合わせて入浴してもらうようにしている。また、浴室に手すりを設置、滑り止めマット等を使用し、個々自己の能力で入浴できるようにしている。また、温泉が出る為、温泉をゆっくり、堪能してもらっている。	事業所は温泉を利用し快適な入浴を楽しむことができる。手すり等を設置し、安全に入浴できるよう配慮している。入浴を好まない方にも、声掛けや誘導、時には二人で支援する等、工夫し清潔が保てるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入所前から使用していたベッドや布団の使用の継続。また、ゆっくり休まれるように季節に合わせて布団の調節をしている。また、ホールにはソファーや椅子など、好きな場所でゆっくりできるようにと整えている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人のファイルに処方箋を入れ、常に確認できるようにしている。薬の管理は職員が行い、職員2人服用まで確認し、変化があった際には、看護師、家族、医師等に報告している。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の能力に合わせて、調理や掃除、畑仕事、裁縫などをしてもらっている。また、必ずお礼を言う事で、張り合いが出るように努めている。レクリェーションなどは、個々に合わせたものを提供している。		
48	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・買い物で外出したり、地域行事に参加したり、季節の花見ドライブや、港や空港にドライブに行き眺めたり、個別の外出で外食したり利用者様の希望に沿うように努めている。また、馴染みの美容院へ行ったりと家族や地域の方にも協力してもらっている。	季節に応じた花見や、地域行事への参加、利用者の希望に応じた個別の支援での外出等様々な支援をしている。気分転換の散歩、畑仕事、敷地内での行事等戸外で外気に触れる機会等も大切にしている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ホームの金庫で預かっているが、本人の自己管理でお金を持っている利用者様もおり、本人の物を購入する際には、本人の財布から自分で出して購入することもできる。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の希望があった際は、話が出来るように援助している。また、娘に手紙を書いたりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感ある作品（一緒に制作した物や飾り）、活動時の写真などを掲示し、季節感を感じ、掲示物を見る事により、思い出したり、考えたり、笑ったりと、過ごせるように工夫している。	居間にはソファーや椅子など思い思いの場所でくつろげる様工夫している。利用者の作品や思い出の写真等が掲示されている。ベランダも広く外気に触れながら季節を楽しめる。居室前には一休みや気の合う利用者同士が語り合える椅子が設置してある。温度や湿度が管理され、清掃も行き届き清潔感のある空間である。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールにはソファーや椅子など好きな場所でゆっくりできるように整えている。また、部屋の前にベンチがあり、独りで数人の利用者様同士で過ごせるようになっている。		
53	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・部屋には本人の使い慣れた家具やテーブル、椅子、道具、仏壇、写真等を置き、本人や家族の意向を取り入れた部屋作りをしている。また、1日、3回の温度・湿度チェック、冬期間は、各部屋に加湿器を置き、適切な温度管理をおこなっている。	利用者の馴染みのものの持ち込みも出来、利用者それぞれが思いのまま家具の配置や飾りつけがなされ、掃除や温度湿度が管理され快適な空間である。各部屋には災害時に避難済みか、確認するライトが設置され、安全にも配慮されている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホール内は、段差がなく危険と思われる個所があれば改善に努め、浴室内、トイレ、廊下に手すりを増やし、有する能力を継続して出来るように、出来なかった事にも、色々な角度から促し出来る事を見つけ、自立した生活に繋がるように努めている。		